

読者のひろば

て70年、私の勤務校のある地元では幾多のイベントが行われている。

21日行われた創作ステージ「あらお・ありがとう・あしたへ」は、荒尾の近現代を振り返る「万田坑」「荒尾二造(東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所)」「ナン」を題材とした3部作であった。

荒尾の絆描く
創作ステージ

高谷和生58歳公務員
(玉名市)

荒尾市が1942(昭和17)年4月1日、県内4番目の市として生まれ

市民の方々と一緒に連綿としてつながる荒尾の縦軸の絆を、熊本を代表する戦争遺跡である荒尾二造の歴史検証や保存運動に携わりながら紡いできた。今回、あらためて舞台上の一人の少女と一緒に、荒尾の新しい平和のシンボル・荒尾二造を見いだした。横軸の絆は、そこで生きた人々のつながりであり、その記憶が未来に向けての荒尾の宝であると感じとった創作ステージであった。

オープニングの現代的な舞踊、証言「女たちの足跡」をもとに黒ダイヤ(石炭)と共に生きた一人の母の生きざまを描いた劇、二造に学徒動員された高瀬高女生の心ときめく青春と命をつないだ劇、荒尾の縦の絆を一人の少女の姿を通して知った。そして、ナシの花の満開の中での大合唱、横の絆のつながりをあらためて感じ取った感動のフイナール。ボランティアで参加された多くの市民の荒尾へのほとぼるの思いと熱気ある演技に圧倒され、胸が熱くなった。私自身、この10年間、

投稿される方へ

「読者のひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。

あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者のひろば」係
②ファクス 096(363)1268
③Eメール

hiroba@kumanichi.co.jp